

## ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想とパートナーシップ戦略

赤澤宏樹<sup>1)</sup>\*

### Hyogo Eco-Net-Museum Plan and Strategy for Partnership

Hiroki AKAZAWA<sup>1)</sup>\*

#### 要 旨

成熟社会の到来に伴う住民の参画と協働を背景に、人間の生活を含めた地域固有の自然・環境を未来に継承することを目標とするひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の実現に向けて、人と自然の博物館のパートナーシップ戦略について論じた。人と自然の博物館は、地域課題の内容に沿った博物空間区を設定し、そこの類似パートナー、利益共有パートナー、技術提携パートナーと生涯学習プログラムを中心に連携することによって、ひょうごエコ・ネット・ミュージアムを実現させようである。その際に本館機能として求められるのは、連携を支援するパートナーシップ支援、地域課題を地域で解決するコミュニティ・シンクタンクと生涯学習院である。

キーワード：パートナーシップ、博物空間区、生涯学習、コミュニティ・シンクタンク

#### はじめに

「人口および物質的消費の成長はあきらめても、生活の質を成長させることはあきらめない」成熟社会（ガボール、1972）を迎えた今日、兵庫県では2002年12月に兵庫県条例第57号「県民の参画と協働の推進に関する条例」を公布し、地方分権・多極分散による多様性と個性を優先する生活者の視点に立った新しい社会システムへの転換を試みている（兵庫県、2002）。この動向の元で21世紀最初の総合計画として取り組まれた「21世紀兵庫長期ビジョン」（兵庫県、2001）は、県民が自らの住む地域の将来像を描き、それを実現していくというものであった。このような社会情勢の中で、博物館といった自然・環境すなわち県土を直接対象にする社会教育施設が担う役割が拡がりつつある。

従来自然系博物館の存在意義は、自然科学分野の学問にとって有意な資料を収集しそれを保存、研究することによって、学問の発展に寄与しつつその成果を社会に広く啓蒙することであった。この自然系博物館の存在意義が、前述の社会の変化に伴い、より地域住民に身近な

自然を対象とし、より地域での各種活動のために有意であり、より地域に密着した学習活動を行うことに拡がっている。今日の博物館には、高度な研究実績も求められつつ、社会または地域に対するより具体的な貢献を求められていると言えよう。

人と自然の博物館では、2001年度に「博物館の新展開」を策定し（兵庫県教育委員会、2001）、2006年度の中期目標に向けて運営改革を推進している。この終章で長期目標として掲げられているひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想は、県土の自然・環境に関わる資料、展示、研究、普及などの博物館機能を県立博物館単館で担うのではなく、主に自然・環境情報を県下の博物館相当施設群で共有し、地域施設が担うべくネットワークを構築することによって地域活動をより拡大させるものであった。本構想の実現のためには、ここでいう「ネットワーク」の具体方策を検討し、現行の事業を発展させることによって実現化に取り組む必要がある。

そこで本稿では、「博物館の新展開」を経てひょうごエコ・ネット・ミュージアムの実現に至るパートナーシップ戦略について、現行の事業を元に論じる。なお、具体

<sup>1)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

\*兼任：姫路工業大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Institute of Natural and Environmental Sciences, Himeji Institute of Technology; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

にネットワークを構築する先の施設については、その時点での判断材料による所が大きいため、本稿では扱わないものとする。

## ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の目標

ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想では、博物館に求められる機能の拡大をふまえつつ、成熟社会の本格的な到来に向けて「人間の生活を含めた地域固有の自然・環境を未来に継承する」ことが目標となろう。この実現のための手法として、特に21世紀兵庫長期ビジョン以降、県下各地で取り組まれている地域活動との連携がある。地域の課題を自らの手で解決したい、日常生活で得た興味や問題意識、情報を元に地域活動をしたいという住民の欲求は、「博物館の新展開」で提示した4つの博物館機能で受け止めることができる。博物館が提供する学習プログラムを通して地域の自然・環境を継承する担い手を養成し、さらに地域での継続した学習の場を提供すること、すなわちフィールド型の学習環境を住民に提供することがひとつである。もうひとつは、フィールド型の学習で得られた情報を博物館で一元管理し、それをを用いて地域の課題を住民自らが解決すること、すなわち地域の生きた自然、産業、風俗などを、地域住民の活動によって動的に保存することである。

このふたつの事業の柱は、博物館の新展開においては「生涯学習の支援」と「自然・環境シンクタンク機能の充実」と表現されていたが、ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の実現に向けたより具体的方策として参画と協働の手法を取り入れた内容に発展させる必要がある。図1にこれらをまとめた、ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の基本理念を示す。

### 「博物館の新展開」からひょうごエコ・ネット・ミュージアムへの展開

ここでは図1に示したふたつの手法を元に、「博物館の新展開」からひょうごエコ・ネット・ミュージアムへの展開に際して根幹を成す事業を整理する。「博物館の新展開」時には、生涯学習の支援として住民に学習プログラムと場を提供する一方で、情報の一元管理とシンクタンク

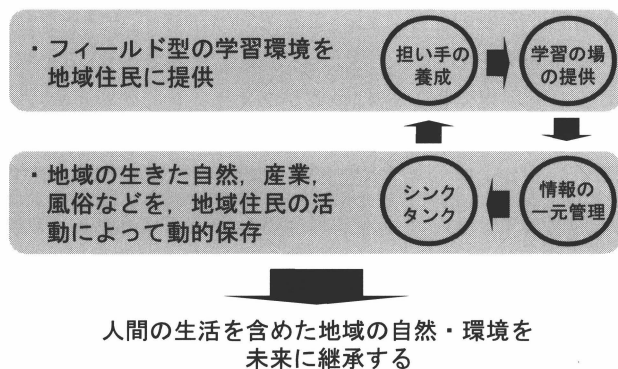


図1 ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の基本理念

クに対しては専門家が担う役割が大きかったと言える。しかし、参画と協働の手法を取り入れ、住民自らが地域を学習し動的保存を担うのであれば、「フィールド型の学習環境」と「地域住民の活動によって動的保存」の双方をあわせたものとして「生涯学習」を捉えねばならない。

以上のことをふまえると、ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の実現に向けた人と自然の博物館のパートナーとは、生涯学び続ける地域住民であり、生涯学習を支える地域施設であるということになる。今後は、生涯学習に意欲を持つ地域住民に向けたプログラムの実施と、地域施設との連携の具体方策の検討が、パートナーシップ戦略の初動として急務になるであろう。

## ひとはくキャラバンにみるパートナーシップの可能性

図2に、2002年度の実施内容を中心とした、ひとはくキャラバンにみるパートナーシップの可能性を示す。

### パートナーシップの対象

2002年度のひとはくキャラバン（但馬地域）では、兵庫県竹野町のまちづくり団体「いろりの会」との連携による竹野エコツアーを実施した。このプログラムの主旨は、竹野町の自然・環境の学習のみにとどまらず、農家民泊を体験することを通じて参加者に地域の暮らしや環境を丸ごと体験してもらおうというものであった。農家の暮らしについては博物館の研究員の中には専門としているものもおらず、地元住民の暮らしをそのまま体験してもらおうこととなったが、これこそ地域でしかできないプログラムである。ひょうごエコ・ネット・ミュージアムの実現に向けたパートナーシップの対象としては、自然・環境分野という学問領域に関わらず、構想の目標である「人間の生活を含めた地域固有の自然・環境を未来に継承する」ことに関わる団体および施設と柔軟に連携することが求められる。このようなパートナーは、地域課題の解決のための人材育成やプログラム開発について人と自然の博物館と連携できると考えられることから、「利益共有パートナー」として位置づけられる。この場合の「利益」とは、地域課題の解決や自然・環境の動的保存を指す。

また、2002年度のひとはくキャラバン（阪神南地域）では、日本野鳥の会・兵庫県支部と連携し、阪神西宮駅周辺の街路樹にてムクドリのねぐら探しを実施した。このプログラムも、単にねぐら探しの野外セミナーとどまらず、実施前から調査したムクドリの分布を博物館にてGISデータ化し、その手法や結果を共有するというものであった。また、日本野鳥の会・兵庫県支部は自然地での活動を主とする団体であったが、都市部でプログラムを実施することによって、従来に無い地域学習のプログ



〈竹野エコツアー〉  
地域の暮らしや環境を丸ごと体験するエコツアーを、地元のまちづくり委員会と協力して実施。

●地域環境に対応した多様性●  
分野に関わらず求められる施設・団体と柔軟に提携。



〈リサーチプロジェクト：川の生き物を調べる〉  
杉原川で見つけた生き物をチェック。絶滅危惧種をつかまえた人も。

●情報を共有する●  
可能な限り同じ質の情報を共有。



〈ブラックバス取り除き大作戦〉  
在来の生物に影響を及ぼすブラックバスを、みんなで捕獲。

●人材の育成● ●新しい事業内容の開発●  
フィールドとの連携。



〈まちの大木で鳥のねぐら探し〉  
日本野鳥の会・兵庫県支部の協力で、阪神西宮駅前にてムクドリのおねぐら入りを観察。

●地域環境に対応した多様性●  
従来に無い地域学習のプログラムを開発。

図2 ひとはくキャラバンにみるパートナーシップの可能性

ラムが開発できたと見えよう。このようなパートナーは、展示、資料や情報などの手法を共有することを通して人と自然の博物館と連携できると考えられることから、「技術提携パートナー」として位置づけられる。

この2種類のパートナーの他、広大な県土において地域拠点となりうる施設を、人と自然の博物館の生涯学習事業の拡大・連携先として考えられることから「類似パートナー」として位置づける。この3種類のパートナーとの連携によって、ひょうごエコ・ネット・ミュージアムを構成する必要がある。

### パートナーとの協働によるプログラム

ひとはくキャラバンでは、県下各地の自然・環境に関する情報を住民が調べ、巨大封入標本づくりやGISデータとして整備することを通して博物館と地域が情報を共有するリサーチ・プロジェクトを試みた。このプロジェクトは、返信葉書付きのリーフレットを配布しササユリやミヤマアカネといった特定の生物の分布情報を博物館に集約する形態、すなわち体験型の学習を交えた情報収集からより簡単な方法で身近な自然・環境情報を蓄積する内容になって、現在も実施されている。プロジェクトの内容の変化は、高度な機能を持った博物館と地域が、可能な限り同じ質の情報を共有することを意図している。住民自らが身近な自然・環境を簡単に調べ、それが博物館とも共有できていることによって、さらに高度な学習行動を発現させることが、地域の自然・環境を生涯学び続ける住民のニーズに応えることに直結するであろう。

より具体的な「人間の生活を含めた地域固有の自然・環境を未来に継承する」行動をプログラムとして実施したのが、ブラックバス取り除き大作戦である。地域を学習するというを、地域住民が自然・環境を調べることから、在来の生物に影響を与えるブラックバスを取り除くという具体行動にステップアップさせたと見えよう。生涯学習に「行動する」という新たな指針を与えるプログラムであり、人材の育成や自然・環境系博物館としての新しい事業内容の開発に大きく寄与する事業であった。こういった行動を持続させ、人間の生活を含めた地域固有の自然・環境を未来に継承するためには、日常からのフィールドとの連携が重要となる。明確な課題を持ちその場で地域住民が行動を含めた学習を持続することのできる空間区を、今後のパートナーシップ戦略において設定する必要がある。

### パートナーシップの将来像

図3にひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の最終像を示す。

以上の検討結果をまとめると、ひょうごエコ・ネット・

ミュージアム構想の最終像はまず特定の課題を有しその場で地域住民が行動を含めた学習を持続することのできる「博物空間区」の設定が基礎となる。この博物空間区の設定は、行政界や広がり的大小に関わらず、地域課題の内容に沿った地形区分や植生分布、あるいは集落単位等に沿ったものになるであろう。博物空間区の中には、利益共有パートナーや技術提携パートナーといった生涯学習において具体的に連携できるパートナーの組み合わせが必須である。そして、それらの地域活動拠点となる類似パートナーが、人と自然の博物館と直接の連携を行うことによって地域の生涯学習または各種活動を支援する役割を担えば、より効率的・効果的なパートナーシップに基づいたひょうごエコ・ネット・ミュージアムが構築できるであろう。

一方、人と自然の博物館には、このようなパートナーシップを支える専門の部課室が必要となる。また、特定の課題を有する博物空間区のために、地域の課題を地域で解決することを支援するコミュニティ・シンクタンクに関する部課室も必要となる。これに日常的な生涯学習を支援する部課室が、現時点より更に充実したプログラムを整備し、生涯学習院というべき機能を整えることによって、人と自然の博物館はひょうごエコ・ネット・ミュージアムの本館として有効な施設になるであろう。

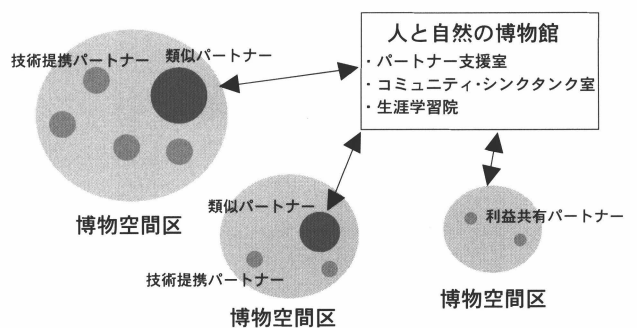


図3 ひょうごエコ・ネット・ミュージアム構想の最終像

## 文 献

- 兵庫県立人と自然の博物館(2003編)ひとはくがやってくる'02. 兵庫県立人と自然の博物館, 7p.  
 兵庫県(2002) 県民の参画と協働の推進に関する条例. 兵庫県.  
 兵庫県(2001) 21世紀兵庫長期ビジョン, 兵庫県, 204p.  
 兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県教育委員会(2001)「人と自然の博物館の新展開」, 37p. 兵庫県教育委員会.  
 ガボール.D(1972). 成熟社会—新しい文明の選択—. 講談社.